



法人小規模多機能型居宅介護事業所の交流外出(北狩野ケアセンターとプレーゲあしたか)



避難所の十九時間

ぬくもりの里

障がい統括施設長

山田

芳治

はるかぜNo.六十二号の巻頭文締切日に合わせ「出逢いは財産」の原稿が完成。一週間締切りが延びたお陰で再度見直しに余裕が出来ました。そんな矢先の出来事でした。

台風十九号発生報道、今回は、今までの経験から少し違った感覚？胸騒ぎがしていたかも知れません。

自宅の出窓の飛散防止フィルムを購入し、貼り付け作業、保存食の買出し、自宅周辺の片づけ等々、いっ

になく準備をしました。

発生から数日後には、超大型台風に発達した十九号は、昭和三十三年の狩野川台風並み、それを超える勢力の報道に、狩野川台風を経験された方々は、その言葉「狩野川台風並」に反応している事が想像できます。私は当時三歳、ほとんど記憶がありませんが、唯一道路が川のようになり、そこを渡っていた事を臆気に思い出されます。それが狩野川台風だったかもしれません。

十月十二日未明、命を守る報道に促され避難所に行くことを判断しました。取り急ぎ、空いている店を探し、食糧調達後、避難所に向かいました。午前二時二十分に受付を済ませましたが、避難所内の二箇所の和室はいっぱい、ブルーシートを敷いた会議室に一人二枚の毛布での待機です。

以前の役所での職歴から、災害時司令塔の立場から、一転し支援を受ける身となり、様々な事を感じながらの空間でした。

時間が経つにつれ、避難者が続々と避難所へ、市内三箇所の避難所が最終的に十二か所に拡大をしました。時間の経過と共に、狩野川放水路はゲートを開門、市内各所での道路冠水・住宅への浸水・山崩れによる道路封鎖などが情報として入ってきました。会議室では、情報収集の手段もなく、唯一携帯電話に頼りましたが、アクセス数が多く、繋がらない状況が続きました。

避難所では、何も出来ずに、ただ祈り避難をしてきた皆さんの不安、高齢の親や幼い子どもを残し懸命に働いている法人職員や、避難所の運営、市内パトロールをする市の職員、ボランティアで出ている消防団等々、早く台風が過ぎ去る事を祈った時間でした。

この間、台風十九号の影響は、全国各地で人的被害、河川の氾濫や建物被害が報道されています。現在の狩野川は、それ以上の雨量を記録しながらも、昭和四十年に完成した狩野川放水路は、完成以降、水害による死者を一人も出していない事の有難さを再認識していました。また、今回、箱根山系及び天城山系の未曾有に及ぶ雨量にもかかわらず、狩野川の決壊・大規模越流もなく、多くの人的被害が無かったと思います。この僅かな時間を経験し、巻頭文を差し替えました。皆さんも、普段から非常食の備えや、命を守る行動を早く判断して下さい。

法人障がい者部会の

取り組み活動



伊豆の国市とセブンイレブンの包括連携協定が結ばれ、地産地消や雇用など9つの分野で連携をすることが決まりました。そのうちのひとつに、もくせい苑のエコバッグ販売があります。利用者が刺繍ミシンとミシンを使い、ひとつひとつ丁寧に作られています。レジ袋の削減という環境問題への取り組みや、障がい施設における工賃向上が期待さ

もくせい苑のエコ
バッグがセブンイ
レブンで販売中

エコバッグはお弁当1個とペットボトル飲料1本が入る小が380円、お弁当3個、ペットボトルが3本入る大が550円と2種類あり、セブンイレブン大仁店(伊豆の国市御門)にて、好評発売中です。かわいいた刺繍の入ったエコバッグにお弁当を入れ、おしやれでエコな活動を始めてみるのはいかがでしょうか？

れています。利用者からは、「刺繍の糸の交換に苦労した」「友達が買ってくれて嬉しかった」「みんなに使ってもらえたら嬉しい」「若い女性だけではなく、男性にもおすすめしたい」との声が聞かれました。



令和元年9月27日、伊豆市天城ドームを会場に開催されている「静岡県作業所連合会」わくわく東部地区会ふれあいスポーツ・レクリエーション大会」において、プラム利用者の城所紗月さんが、女子50メートル走で1位金メダルの栄冠に輝きました。中豆授産所からプラムの長い歴史の中で、初の快挙です。

スポーツで活気あ
ふれる毎日を！
プラムの活動と成果

走り終えた後、「おめでとう」と駆け寄る職員に、「みんなのおかげです！」と。謙虚さも忘れない紗月さんに、感動はさらに膨らみました。

男子50メートルを走った、鈴木達也さんも、予選1位で決勝へ進みましたが、残念ながら入賞を果たせませんでした。

若い利用者が増えたことにより、スポーツの分野でも活気にあふれています。

2020年夏に開催される、東京オリンピック・パラリンピック。自転車競技の会場となるベロドロームは、伊豆中央ケアセンターのすぐ近く。オリンピックモードを盛り上げるため、管内事業所ではオリンピック音頭や、パラリンピックの正式種目の「ポッチャ」を取り入れたりしています。

プラムでは、プラム・カフェ内にポッチャの専用コートを作り、利用者が楽しくゲームを繰り広げています。

複合施設ふらつと月ヶ瀬内の各施設も、「ポッチャ」を取り入れているため、こども、高齢者

障がい者合同の、ポッチャ大会を実現したいと願っています。

行事のたびに繰り広げられるシーンに、癒されたり、励まされたり。

ますます明るく、楽しく、充実感あふれるプラムでありたいと思います。



救護施設の特徴として、「循環型施設」と呼ばれ一人ひとりの状態に適した環境（高齢者施設・地域）等に移る事が増えています。施設では、日々の心身ケアに並行し、複数の作業・内職の取

り組みに力を入れています。多くの利用者も、自身で選んだ作業に分かれ、それぞれの場所で活躍しています。また、入所に生活環境や生活習慣を整える事によって、その人らしさを出す。若しくは、らしさを再発見できる場所となっています。

近年、救護施設の行動指針より、地域との連携による包括的支援や相談支援ネットワークの参画や施設機能の地域への提供や就労訓練事業の取り組みが求められています。

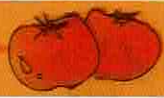
そこで施設機能の提供として、地域の方に高尾園の持つ複数の内職作業に参加して頂く事を考えました。ここでは、障がい等で就労機会に恵まれない方の『成功体験の訓練』の場や今、社会的な問題になっている80・50問題対策として地域で暮らす方々の日中の居場所として役に立ちたいと考えました。この取り組みについて考えるうえで、「施設の位置する地域課題について勉強不足であること」に気が付きました。今年の三月より、金岡地区民生・児童委員の定例会に参加させて頂き、地域を支える方々

の顔を見る事の大切さ、高尾園の現状を報告させてもらう事の大切さを学ばせて頂きました。

定例会に参加する事で、同じく地域を支える包括支援センターとも連携が出来るようになり、現在まで、数名の方に居場所として利用して頂きました。まだまだ手探りではありますが、地域と連携しニーズに応える事が出来る環境作りに努力して参ります。

最後に報告ですが、平成二十七年から行っている地元企業と共同実施による市内への保育園等へ積み木の提供「積み木プロジェクト」が静岡県社会福祉協議会の主催する平成三十年「ふじのくに地域共生大賞」神谷基金賞を受賞致しました。この活動にご支援頂いている皆様により感謝申し上げます。





法人栄養調理委員会の取り組み



栄養調理委員会は年間で四回程度集まり、各施設の取り組みや改善点等を話し合います。十月には調理師を主体として、「消費税増税に伴う食料料金の増額に対応した食事提供」という課題に対して調理実習をおこないました。また、今後は「HACCPシステムの衛生管理の重要性」という課題にも委員会でも対応しつつ、各施設の取り組みを生かした活動をしています。



調理実習の様子

「あしたかホーム」では楽しく、美味しく食事を召し上がって頂くため、食事の様子を拝見し、日々の献立の工夫を行っています。ここ最近では手作りおやつにも力を入れており、利用者から「美味しかった」「もっと食べたい」など

直接声も聞かれるようになり、職員一同やりがいを感じています。甘味を通じたQOLの向上を期待しています。



プリン(右とお弁当(下))

「伊豆中央ケアセンター」ではデイ利用者より、夕食の自宅配送を求める声が強まっています。高齢者世帯に完成した食事サービスの提供を継続し、夕食弁当を介して栄養支援を行っています。

「デイサービス」の昼食は管理栄養士によって管理されています。しかし、在宅に戻ると管理栄養士による栄養管理はできません。ですが、この夕食サービスの提供により、管理栄養士と調理師が在宅

生活での栄養管理に深くかかわる事が出来ます。

きっかけは利用者の声を受け入れ、さらにデイ利用者から、そして地域へ。そんな役割を担えるデイサービス、さらに地域へ根ざしたプランナーとして積極的に出向いていく姿勢が重要だと思われまます。

「高尾園」では80名の利用者が生活されており、個々の支援内容は様々です。近年、利用者の社会復帰に向けた就労支援を行っており、栄養課では利用者1名の就労支援を五月末より開始しました。はじめは食器洗浄のみでしたが、時間の経過と共に、切り場や盛り付け、機械の操作を行い、周囲の状況を見て動く事も出来るようになりました。元々携わっていた調理業務の為、ご本人もやりがいを感じ、真剣な表情やとても良い笑顔が見られるようになりました。今後も利用者の潜在能力を生かした支援を行っていききたいと思っています。

「ぬくもりの里」では、今年四月より「ニュークックチル」による食事の提供を行っています。半年が経過し、職員も調理にだいぶ慣れてきました。調理手順や味付けにアレンジを加え、安全に美味し

く食べて頂けるよう取り組んでいます。

「ブレイクおひと」では、調理員による出張料理を行っています。目の前での調理は毎回好評で、五感を刺激し食欲が増すようです。また、利用者の誕生日には個々のリクエストメニューを提供しています。少人数ならではの特性を生かし、家庭的な雰囲気を感じていただけるよう取り組んでいます。

「みはるの丘浮島」では、開設当初より真空調理を主体とした先進的調理技術を導入してきました。また、介護食の作成には、ゲル化剤や酵素を有効利用して、すべての利用者にとって楽しみとなるような食事作りを探索しています。常食から介護食まで、出来る限り同じ食材で、見た目にも同じ食事が提供できるように「食のバリアフリー化」を目指しています。介護度が重度化し、食事提供の方法も多種多様となります。入居・在宅・地域の求める声に柔軟に対応することがとても重要です。





あまぎ認定こども園



ぼくたち、わたしたち 一生懸命がんばりました

今年もスポーツの秋がやってきました。あまぎ認定こども園では10月5日土曜日に恒例の運動会を行いました。



9月の夏休み明けから約一ヶ月。毎日遊戯やかけこの練習に取り組んできた子ども達。その成果を保護者

や、地域の人たちに見てもらおう日がいよいよやってきました。

今年から天候の心配もなく、熱中症の可能性も低いということで、狩野ドームでの開催となりました。朝は秋らしい涼しさだったものの、途中から気温はぐんぐん上がり、本部席にある温度計はとうとう30度を表示しています。

そんな暑さにも負けず、子ども達は元気いっ

ぱい。見に来ていただいた方たちからも大きな声援が飛びます。保護者参加種目では子ども達以上に楽しんでいる大人たちの姿も見られます。

そしてクライマックスは年長ぞう組の「あまぎソーラン2019」と「リレー」。年長児の最後の運動会にかける気持ちにその場にいた全ての人が心を打たれました。

今年もあまぎ認定こども園の運動会は大成功でした。



なかいず認定こども園



敬老会へ



なかいず認定こども園から歩いて10分程の距離に春風会ふれあいデイサービスの施設があります。今年も年長児26名が敬老会に招待されて行ってきました。子どもたちはどんなことをしたらお年寄りの方が喜んでくれるのか話し合いをしました。保育室の壁面に飾ってあるコスモスの花をみて「これをプレゼントしよう!」とひらめき、制作に取り掛かりました。ピンクに色付けした紙コップをはさみで切り開き花びらに見立て、楽しそうにつくっていました。

また、おじいちゃんおばあちゃんも知っている歌はないかな?と考え「とんぼのめがね」を歌うことにしました。



当日、会場に案内されるとちょっぴり緊張していた子どもたちでした。「可愛いね～。何年生?」と聞かれ



「今度1年生になります。」と答えていました。

運動会で踊る「キッズソーラン」を披露したときは、一緒に手拍子をしてくれたり、掛け声をかけてくれたり、お年寄りの方がとても喜んでくれました。

職員の方に、「みんなの力が、おじいちゃんおばあちゃんのパワーになりました。」と言葉をもらい、満足感を味わっていた子どもたちでした。

これからも地域とのつながりを大切にし、いろいろな経験を通して人との関わりを学んでいきたいと思います。

親子

介護の仕事体験ツアー



あしたかホーム

昨年に引き続き、今年も静岡県主催の「夏休み介護の仕事体験バスツアー」を八月二十日に受け入れました。

この事業は、小学三、四年生とその保護者を対象としたもので、「核家族化などにより若い世代の方々が高齢者と触れ合う機会が少ない中、一部のマスコミが発信する介護のマイナスイメージにより介護職を敬遠する傾向があるため、学童期の段階から介護に対する理解や興味、関心を高めてもらう機会を持つて頂くことで、介護分野の人材育成を図ることを目的としたものです。

親子合わせて四十名が参加し、施設の役割の理解と介護体験をして頂きました。

介護体験では、車いすの機能と操作・介助の仕方をおこない、初めてのこと戸惑う様子、はにかみながらも楽しそうに取り組む小学生の姿や心配そうに見守って声をかけたり写真を撮る保護者の様子が印象的でした。

食事体験では、なめらか食、やわらか食、きざみ食の介護食の試食や施設の普通食の試食もして頂きました。

ここでも初めは戸惑う様子が見られましたが、「味がしっかりしている」「おいしい」「病院のご飯と同じようだと思っていただけ全然違う」と言った感想が聞かれました。

また、今回は特養とデイサービス、ショートステイの利用者との触れ合いも体験して頂き、容易にコミュニケーションがとれる方々ばかりではなかったと思いますが、視線を下げて話しかけている姿が印象的でした。

今回の受入れでは、介護の未来ナビゲーターとして活動している小川介護士と植松介護士にも受入れ対応を一緒にしてもらうことで若い職員から介護の仕事の魅力発信や身近に感じられるきっかけづくりができたと思います。

最後に、修了式では石川施設長から修了証を一人ひとりにが受け取られ、それぞれの表情から「何かひとつやり遂げた達成感」を感じ取ることができました。

あしたかホームでは、昭和五十八年から小中学生の体験学習の受け入れを続けておりますが、今回のような事業から将来の介護の担い手が増えていくよう今後も努力をしていきます。

夏休み体験学習 みはるの丘浮島

毎年実施している小中学生の夏休み体験学習の受入れを、今年は、七月下旬から八月上旬にかけて八名の生徒を受け入れました。例年に比べ参加者が減少しましたが、宿泊される生徒もいて、多くの笑顔施設に振りまいてくれました。

中には毎年体験に参加する生徒や、兄弟が過去に参加して楽しかった体験を聞いて参加する生徒もおり、とてもありがたく感じます。

参加する生徒がフロアに訪室すると利用者も大変喜び、日頃あまりしゃべらない利用者が、今日は随分口数が多いなと感じられる場面も多く見られました。中にはオセロの対戦相手がなかなか見つからず退屈していた利用者が、生徒と一戦交え「互いに真剣に行うオセロは楽しいよ」と満面の笑みで話をする利用者もいました。それもそのはず、参加される生徒は掃除やレクリエーションに対して真剣な眼差しで取り組み、特に利用者との会話に関しては聞き取りづらさや理解しづらい内容もあるせいか、利用者の表情や口元を真剣に観察し質問に答えていました。これは私達職員も見習

わなくてはいけないなと感じました。

体験学習の受け入れ時に、生徒に必ず将来の夢について質問させていた。だいています。少し前は、人を助ける仕事として介護士の回答がありました。最近では少なくなりま

した。介護の仕事は、その方の人権を尊重して世話をするため、色々ありますが、誇りを持てる仕事です。介護保険が施行されて、介護の仕事が広く知れ渡りましたが、その仕事を希望する方が減っているのか、また社会全体で人手不足のためか、私達が働く介護施設も働く人を募集しています。今後もこの体験学習の受入を通して、介護の仕事のやりがいや介護施設で働くことの楽しさを伝えて、この仕事も良いなど思えるきつかけ作りに繋げられたらと思います。



利用者の家族様の声 あしたかホーム

ご遺族様から貴重な意見を頂戴しました。今後も職員の励みにさせて頂きます。

施設長様ならびに職員の皆様

母が入所中は大変お世話になり有難うございました。おかげさまで八月三十一日無事富士霊園にて四十九日法要を済ませることができました。十五年前の秋、母と一緒に生活していた兄の突然の自己破産、ケアマネの中村さんを頼りに現在に至りました。親身にサポートしてくださった中村さんに母と私はどんなに救われた事が当時を思い出すと今でも胸が痛いになります。

入所してからの一、二年、母の視線を背中に見せながら様振り向かずホームを後にした事が昨日の事の用です。

四年過ぎ、元年が過ぎ、新しい施設に移った頃は職員の方々の優しさに包まれ自分の居場所をしつかりと見つけ元気に暮らしている前掛け姿の母にどんなに安心した事か。

ここ数年ベッドでの生活が多くなりましたが、最後迄寄り添い手厚い介護をして下さった職員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

あしたかホームに入所させて頂き本当に良かったです。母もきっと天国で



感謝している事と致します。

終末期は母と過ごしたいとの私の願いも叶えて頂き、数日間でしたが母と一緒に過ごせた事が喜びとなりました。亡くなる当日の朝、私の身体を気遣い廣中さんが大きなおにぎりを作って下さり、「疲れてませんか？大丈夫ですか？」との優しい声掛けに涙が出る程嬉しかったです。

母が亡くなる一週間前に会いに行つた時の事です。いつもの様にベッドの側で私が折り鶴を折っていると、その日に限って全然眠らず私の顔を見続け「とし子上手だね、一筆賞だね。」と一生懸命口を動かして笑顔を何度も何度も見せてくれました。幼い頃、つもそういつて私を励まし育ててくれた優しく強い母の最期の言葉となりました。

職員の皆様、長きにわたり母をお世話して頂き本当に有難うございました。紙面を通してですが、皆様に感謝の気持ちを伝えられたらと思ひ、ペンを取りました。

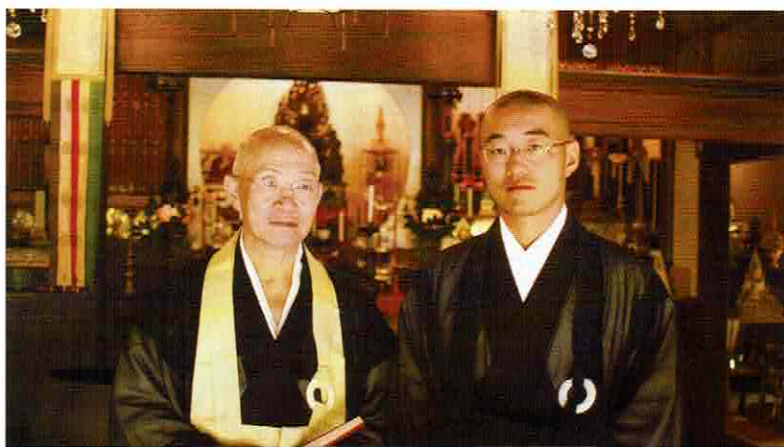
あしたかホームの益々の発展をお祈り致します。
長谷川とし子(村上とよみ娘)

ボランティア慰問 大中寺 月例法要

高尾園では、毎月行われる月例法要、お盆の施餓鬼法要にて、沼津市中沢田にある大中寺の住職にご来園頂き、高尾園物故者の御霊を弔って頂いています。住職には、毎月欠かさず月例法要を行って頂き、今年度からは住職と若住職がそれぞれ交代で来園されるようになりました。利用者も「今日はご住職さんの方だね。」「今日は若住職さんだったよ。」と、お会いするのを楽しみにしています。

大中寺は、臨済宗妙心寺派の禅寺で、梅の名所として有名です。寺の表門は、木造、瓦葺、入母屋造りの二層の楼門で、上層部が鐘楼となっており、市内唯一の鐘楼門があります。その大中寺、高尾園利用者にも馴染みが深く、施設から市内に外出する際は大中寺の横を通る事もあり、梅や桜、あじさいなど季節折々の花々で目を楽しませて頂いています。

また、毎月の月例法要に加え、四月には施設最寄りのお菊観音にて、花祭りにも参加していま



す。お菊観音は利用者のウォーキングコースの途中にあり、「お菊観音まで行ってくる。」と目的の地の一つになっています。

利用者からは、「法要の際に説法を聞けたり、毎年季節の食べ物差し入を頂いたり、とてもありがたいです。」との声が寄せられています。

芝刈り・植木剪定・畑ボランティア

プレーゲあしたかは多くのボランティアさんに支えられています。今回は主な方お二人をご紹介します。

お一人目は、施設内の芝刈り、植木の剪定などして頂いている宮代二三夫さんです。

宮代さんは、プレーゲあしたか開所以来五年以上ボランティアをして頂いています。夏場など外での作業は大変だと思いますが、宮代さんは、

「やはり人の住むところだから綺麗にしておかないとね。環境整備が大事だよ。お年寄りもいい気持ちで散歩をしたりできればと思います。あとは自分自身の健康の為だね」と笑顔で言っていました。

お二人目は、敷地内の畑で様々な農作物を育て頂いている大嶽茂さんです。今年もじゃがいも、



トウモロコシ、スイカ、落花生などを作ってくださり、六月五日と九月十二日に「プレーゲあしたか収穫祭」を行いました。特養入居者様、小規模多機能利用者様が託児所ぼっぼの子供たちと一緒に収穫を行い、その後美味しく頂きました。お年寄りは畑仕事をしていた方が多く、「昔はよくやっただよ。久しぶりだね」と笑顔が多く見られました。現在は、ブロッコリー、白菜、キヤベツ、大根、黒豆を栽培して頂いています。黒豆が十月中旬に収穫予定です。

大嶽さんに栽培する上で大変なことをお伺いしたところ、「カラスに食べられないようにすること。あとは、続けて同じ物が出来ないので土の状態を見て計画を立てること」とのことでした。今後もお二人にはお体に気を付けられ、敷地内で活動して頂ければと思います。

＊北狩野ケアセンター＊

石廊崎への日帰り旅行



「伊豆半島は南から流れてきて、衝突してできたんだって！」
 今年3月ジオガイドの講習で衝撃的事实を知りました。「だから中伊豆の温泉は山の中なのにしよっぱいのか。」「昔は滝の裏を歩くことが出来たよね。」と色々な知識が湧き出て、丹那牛乳の【小瀬・川柳】に応募をし、入選者は学校給食の牛乳パッケージに掲載されました。

伊豆半島を学ぶことで実際見たい・行ってみたいと熱望し、今回の日帰り旅行を計画することになりました。

まずは行き先、そして行き方等資料を集め検討します。その行程が一日のスケジュールに収まるのか、そして何を食べどのくらい滞在できるのかを皆で考えました。

待ちに待った九月十三日金曜日。旅程どおり、下田石廊崎に向け出発しましたが、台風15号の爪痕は伊豆の山中や道路に残っていました。

参加者の感想です。『あいにくの曇天で、崎は風が強くて肌寒い陽気でした。東の風(ナライノ風)が吹いてちよつと寒かったですが大海原を前にして深呼吸をして海の英気を吸い込んで元気をもらってきました。』『石廊崎の灯台の根元へ行って大きくてびっくり。昼食の刺身はとてもおいしかったので良かった。』『男子の楽しみの遠足。山道の景色を眺め楽しみました。』『石廊崎への旅行など考えてもいかなかったところへ行って夢のようなでした。灯台・石廊神社へ行く急な坂道、同伴者の案内により歩けた。素晴らしい眺め海に浮かんだ色の濃い船、景色のバランスが素晴らしい。もう一度行けるなら石廊崎の西側エリアに行きたい。』と、感想が寄せられました。

昼食中には、もう次の候補地が出てきました。つづじのころ南伊豆の蛇石へ。「そのためには先生、嫌な体操もお当番もしっかりやるよ。来年も歩けるように。」そこには、歩き疲れ少しのお酒でほほを赤くした昔の青年たちが来年の春の計画を立てていました。

＊伊豆中央ケアセンター＊

民間社会福祉施設職員等
海外研修北米班に参加して



今回の海外研修について、北米の先進的な福祉の現場を見学し、知識を広め、特に看護の視点から個々の尊厳を大切にしたい海外の終末介護を学ぶことを目的に参加させていただきました。貴重な経験の中で、楽しい仲間と出会い充実した十日間でした。前半のカナダのバンクーバーは街も綺麗で治安もよく、親切な方々でした。税金は高いが医療・教育・社会福祉は全て州が保障してくれれます。特に高齢者アクティビティセンター(デイケアセンター)は、年間38ドルであらゆるプログラムに参加でき、なかには有料のプログラムもあります。契約者は約四千人います。またほとんどの従業員はボランティアです。アクティブには200人の方が支えています。退職した後の孤独・喪失感を感じることなく、笑顔でいきいきと皆さん働いていました。プログラムで作成したもので、富裕層の方が

SENIORS' ACTIVITY CENTRE



寄付してくれたものを販売して施設の備品の購入費に当てています。市が主体となって経営していますが、それを住民が支えているという理想的な施設だと感じました。

後半のポートランド(米国)では、行政の講座・食事宅配センター・大型シニアケア施設の視察をしました。食事宅配センターでも定年後のボランティアの男性が自分の車で、スマホのグーグル地図を確認しながら、お昼を宅配していました。一緒に同行させてもらい、町並みをドライブしながら、明るく生きている高齢者とNice to meet you Good Bye!!と挨拶してきました。

ポートランドは高齢化率が12%ほどで、日本のような認知症問題にはまだ直面していません。障害者に優しい街でした。車椅子で入れないところはほとんどないそうです。

まだまだ報告したいことはたくさんありますが、今回海外研修に参加させていただいたことに感謝申し上げます。

春風会における外国人介護士の受入れ状況

法人では経済連携協定（EPA）による外国人介護福祉士候補生の受入れを平成24年度からおこない、フィリピンから女性の候補生1名を4年間「あしたかホーム」で受け入れました。

その後は候補生の受入れはありませんでしたが、平成30年から現地（フィリピンとインドネシア）での合同説明会（面接）に参加し、その結果法人3施設で5名の候補生とマッチングすることが出来ました。

「あしたかホーム」はフィリピン人の男性候補生1名、「みはるの丘浮島」と「プレーグおおひと」ではインドネシア人の女性候補生各2名で、12月から各施設で就労開始予定となっています。現在は、愛知県と神奈川県日本語研修センターで勉強をしています。

今年も法人では2施設が現地（フィリピンとインドネシア）での合同説明会（面接）に参加し、その後、3名の候補生とマッチングが出来ましたので、来年度は「あしたかホーム」でフィリピン人の女性候補生2名、「みはるの丘浮島」でインドネシア人の女性候補生1名が就労予定となっています。11月から各々の国で訪日前6か月間日本語研修を受けて、訪日後も日本語研修センターで6か月間研修を受けてからとなります。

フィリピン現地合同説明会



現地での合同説明会

候補生からは、勉強（特に日本語）へのサポート体制、労働内容や条件（施設の形態・仕事の内容・給与・利用者の状態）、宗教への配慮（お祈り時間と場所の確保・金曜の集会への参加・モスク、教会の所在地）等多くの質問があり、また、多くの候補生が資格を取得して日本で長く働きたいという希望を強く持っていました。

受入れ態勢の充実

受入れにあたり法人内では受入れ態勢（学習支援面と生活環境面、宗教と業務面、そして精神面での支援方法等）についての確認をおこなっています。

今後も外国人介護人材の受入れを積極的におこなっていく上においても、EPA等の受入れ制度を活用し、自国から希望をもって日本に来た候補生・実習生が安心して心地よく働いて頂けるよう支援していききたいと思います。

インドネシア現地合同説明会



- 春風会法人本部・総合老人ホームあしたかホーム
〒410-0302 沼津市東権路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297
- 特別養護老人ホームめぐもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511
- 特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東権路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX (0558) 76-6755
- 原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511
- ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

- 天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽47
TEL (0558) 87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723
- ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3383
- 小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市杖之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
小規模多機能型老人介護支援事業所
〒410-0302 沼津市東権路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299
- 障害サービス ケアホーム などの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL (0558) 77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL (0558) 77-1221

- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8201
- あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201
- プラムカフェ
TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302
- なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811
- はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334